

情報の海へ——CNKIカードの利用

渡邊 義浩

「今は昔、中国語の論文を入手するには、たいへんな労力が必要でした」という昔話が語られる時代が来るのであろうか。今から一〇年前、『三国志研究要覧』（新人物往来社、一九九六年）という「三国志」に関わる文献目録を出版したことがある。可能な限り現物にあたることを目指し、当時暮らしていた函館から札幌の北大まで行き（特急で四時間）、一日中コピーを続けて目が真っ赤になった。たまたま東京に出ると、国会図書館に行き、半日かけてやっとの思いで一〇篇の論文を入手して、すぐさま溜め息をついたこともあった。「中文雑誌の薄い紙をコピーするにはコッがあるんだよ。裏に白い紙を当てて薄めにとってよ」と国会図書

館で頼めるはずもない。裏まで写ってしまったコピーを渡され、太陽に透かしてみても何も変わらず（当然であるが）、茫然と立ち尽くした。それでも国会図書館に行かなければならないほど、中国語の論文は入手しにくかった。そうしたなかで、北海道教育大学函館校の図書館は、わたしの山のようなコピー依頼をさまざまに大学に分散して、データの収集に努めてくれた。そういう点では、東京に戻ってからのほうが、怠惰になった気もする。

CNKIカードは、都会で論文集が怠惰になっっている研究者にも、地方で情報に飢えている研究者にも等しく情報の海を提供する。しかも、その海の深さと広さは、これまでの情報量の常識を超え

る。たとえば、『三国志研究要覧』では、一九〇〇〜九二年に出版された『三国志』に関わる著書・論文を五二八一件収録している。実は、データとしては一〇〇〇〇件以上集まったのであるが、新聞記事や頁数の極端に少ない論文、あるいは現物にあたれなかったものなどを省いて約五〇〇〇件としたのである。それでも、『三国志』に関する卒論の数が高くなった、と他大学の先生からお褒めの言葉をいただいたくほど、情報量を増やすことができた、とその当時は感じていた。ところが、この感想をCNKIカードはいとも簡単に覆す。

CNKIとは、中国学術情報データベース（China National Knowledge Infrastructure）の略称である。CNKIプロジェクトは中国社会に「知識のインフラ」を整備するため、北京の清華大学が中心となり構築された、大規模な国家プロジェクトである。CNKI「中国学術情報データベース」は、大きく四つのデータベースから構成される。CJFD「中国学術雑誌全文データベース（China Academic

「Journal Full-text Databases」]「CCND
「中国重要新聞データベース(China Core
Newspaper Databases)」CDMD「中国
博士・修士学位論文データベース(China
Doctor/Master's Dissertation Databases)」
CPCD「中国重要会議論文全文データ
ベース(China Proceeding of Conference Data-
base)」である。利用形態は、インター
ネットアクセス、DVD-ROM、ロー
カルホスティングの三種により行われて
いる。このうち、CJFD「中国學術雜
誌全文データベース」は、一九九四年以
降の中国(大陸)で発行された重要雜誌
六、一〇〇誌より、八九〇万件以上(二
〇〇四年一月現在)の文献を全文収録し
ており、収録分野は、理工(三分野)、農業、
医薬・衛生、文学・歴史・哲学、政治・経済・
法律・教育・社会科学、電子・情報科学
の九つのジャンルに分類されている。そ
して、一月に一度、情報は更新されるた
め、八九〇万件というインターネット上
の案内は、さらに更新されているわけ
である。

わたしは、CNKIの出現当初からこ

れに注目していた。しかし、CJFDだ
けで約二〇〇万円(インターネットアク
セス)の負担が必要である、と聞いた時
にすぐに諦めた。ちなみに、インターネッ
トアクセスだと、CCNDは約六〇〇万
円、CDMDは約一六〇〇万円、CPC
Dは、約一〇〇万円である。このすべて
を揃えると三〇〇〇万円を優に超える。
家を買えると思った。さすがに、購入す
る機関が少なかったのか、DVD-ROM
Mによる分売が始まった。これなら、と
思って、「CNKIの中のCJFDの中
の文学・歴史・哲学類の中の中国古代史」
という小さな部分だけを買った。それで
もわたしには随分と堪える額であった。
研究機関でまとまったお金があれば、
お買い得な方法もある。CJFDの必要
な部分だけを導入するのだ。例えば、イ
ンターネットアクセス方式の「文学・歴
史・哲学」分野だけの契約だと、年間ア
クセス料は、約一〇〇万円(初年度には
データ建設費二〇万円が加算される)で
ある。ダウンロード制限はないので、一
篇あたりの単価はカードに比べ格安とな

る。

お金の話はひとまず置いて、具体的な
例に戻ろう。さきほど掲げた『三国志研
究要覧』の中には、嵇康に関する文献が、
一〇八件収録されている。そこで、わた
しの購入した「CNKIの中のCJFD
の中の文学・歴史・哲学類の中の中国古代
史」から、タイトルに嵇康というキーワー
ドが入っている論文を検索すると、九件
の論文が検索された。日本では容易に見
ることができない雑誌の論文が、DVD
から印刷できるので(裏うつりは当然し
ない)、便利だなとは思ったが、こんな
ものか、とも思った。

こんなもの、だったのは、わたしの財
力であることに気づかせてくれたものが
CNKIカードである。二〇ポイント八
四〇〇円より購入できるこのカードは、
論文一篇の印刷に三ポイントが必要とな
る。八四〇〇+二〇×三三=二二六〇円、
論文ではなく本が買えそうである。べら
ぼうに高い。しかし、その代わり、CN
KIの四つのデータベースがすべて検索
できる。この権利が八四〇〇円で購入で

さるのであるから、これはとてつもなく安い。だが、繰り返しですが、印刷にはポイントがかかるし、全文を見ることにも印刷と同じポイントが必要である。全文検索データベースなのに、これではおいそれと全文を見ることはできない。その代わり摘要という三〜五行程度の概要が見られる。これが何となく重要そうに見えて、全文を見たい⇒印刷をする⇒論文一六〇〇円の世界へとわたしを誘うのである。

お金の計算を我慢して、実際に検索してみる。繰り返しですが検索するだけなら、お金はかからないのである。すると、「中国古代史」では九件しか検索できなかった嵯康が、中国文学を含む文学・歴史・哲学類全体では一八四件、CJFD全体では二〇一件を検索できるのである。さらに、キーワードで検索するとCJFD全体で三五二件、全文検索、つまり嵯康という言葉を使っている論文の件数を探すと、実に四一二七件に及ぶ。『三国志研究要覧』全体の情報量とほぼ同じなのである。CNKIカード恐るべし。「CN

KIの中のCJFDの中の文学・歴史・哲学類の中の中国近代史」という小さな部分だけをDVD-ROMで買っても、この情報量は享受できない。そうになると、貧乏性のわたしは、一六〇円×四二七篇⇒約五二〇万円という計算をし、嵯康の論文を書くには五〇〇万円が必要なのか、と再び財力の無さに絶望するのである。

そこでCNKI日本総代理店の東方書店さまに無理なお願いを。ぜひ、中国側と交渉して価格を下げてもらって欲しい（現在、交渉中とのことです。頑張り！）。莫大な費用が掛かっていることは理解できるが、やはり価格が高いと思う。台湾の中央研究院は、同じく国家プロジェクトとして、莫大な費用をかけたデータベースを、一部ではあるものの無償で公開しているし、大東文化大学にEhion.siteを設置することも無償で許諾している。それが無理であれば、せめて摘要の部分に判型と頁数、あるいは総字数を明記すべきであろう。そのうえで、一篇一律三ポイントという不合理な課金もや

め、字数あるいは頁数に応じた課金にすべきである。さらに、四種類のカード（二〇ポイント八四〇〇円、四〇ポイント一六八〇〇円、八〇ポイント三三六〇〇円、二二〇ポイント八四〇〇〇円）のうち、八四〇〇〇円のカードのみ二〇ポイントのおまけをつけていることも改め、多く利用すればするほど単価を下げる工夫をして欲しい。

CNKIカードは、われわれを情報の海へと導いてくれる強力なシステムである。ただし、そのシステムは、今のままではお金持ちの研究者しか利用できない。まともな紹介文も書かないで、お金の話に終始したのはそのためである。まだ学び始めたばかりの大学院生でも利用できるような課金制度に向けて、東方書店が努力していただければ、情報の海は限りなく広がっていくことであろう。

（大東文化大学）

＊